

新型コロナウイルス感染症により、感染症予防への意識が高まっているように思います。猫にも多くの感染症があり、感染力が強いものや、命にかかわるものも少なくありません。今月は感染ルートや対策について知っていきましょう！

猫の感染症って？



ウイルスなどの病原体に感染して引き起こされる「うつる病気」の総称だよ！感染すると**すぐに発症**して、くしゃみや発熱などの比較的**軽い症状**が出るものから、長い**潜伏期間**を経て発症し、やがて**死に至るもの**まであるんだ！

感染症の多くは、ウイルスをもった猫（感染猫）の唾液や鼻水、排泄物などに接触することでうつります。そのため、元ノラ出身の保護猫や、母猫がノラ猫である子猫は、感染猫と接触していた可能性が高い為、何かしらの感染症にかかっているケースが多いでしょう。

感染症の中には動物病院で簡単に検査できるものがあります。それは猫白血病ウイルス感染症と猫エイズウイルス感染症。どちらも猫にとって怖い病気なので、同居猫にうつさないためにも、新しい猫を家に迎え入れたら慣れた頃にウイルスの有無を調べましょう！



どうやってうつるの？

感染症を引き起こす病原体の種類によって、感染ルートが異なります。主なルートを知っておきましょう！



器の共有

感染猫の唾液中に排出された病原体が、器を介して感染します（猫白血病ウイルス感染症、猫カリシウイルス感染症など）



接触・毛づくろい

体表や唾液、鼻水、目やなどの分泌物に存在する病原体から感染します。（猫ウイルス性鼻気管炎など）



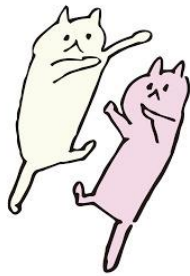
トイレの共有

便中に排出した病原体がトイレ砂や容器、猫の足裏などに付着し、毛づくろいで接取され感染（猫汎白血球減少症、猫伝染性腹膜炎など）



噛み傷

猫同士のケンカや交尾時に噛まれた傷から血液に病原体が入り感染（猫エイズウイルス感染症、猫白血病ウイルス感染症）



授乳、胎盤など

母猫の母乳中に存在する病原体が、授乳時に子猫へと感染します。（猫白血病ウイルス感染症）。この他、体内で胎盤を通して感染する病気も。



くしゃみ・鼻水・目ヤニ

くしゃみの飛沫、鼻水、目ヤニがほかの猫の目、鼻、口などの粘膜に付くことで感染します。（猫カリシウイルス感染症など）

予防や気を付ける事は？

猫を外に出す事で、感染機会は激増！
外猫と直接触れ合ったり喧嘩しなくても、外猫の分泌物や排泄物に触れた事で感染する病気もあります。

完全室内飼いで脱走対策も万全にしましょう！



かかりつけ医と相談の上、定期的な**ワクチン接種**を。



新しい猫を迎える時は？

感染症に罹患しても必ず症状が出るわけではない！早めに新入り猫の血液検査や便検査を含めた健康診断を受けよう！その時に新入り猫の便も持っていくと、寄生虫の卵の検査もしてもらえよ！

鼻水や目ヤニ、下痢など何らかの症状が出たら病院に受診し、感染症の可能性を考慮した隔離期間を相談しよう！

先住猫にワクチンを接種している場合も、新入り猫を迎えて二週間ほど生活空間を分けましょう。完全隔離できる別室が理想ですが、無理なら新しい猫をケージ内で生活させて、接触、器・猫トイレの共有を防ぎましょう！

その間、鼻水・下痢などの症状がでないかよくチェック！



★木下獣医師のコラム★

家族の一員である猫の感染症には充分気をつけなければなりません、猫から人に感染する感染症にも注意が必要です。

猫に引っ掻かれたり咬まれたりした際には猫が持つ菌によってパスツレラ症や猫引っ掻き病と言われる感染症にかかることがあります。傷口が腫れるだけでなく発熱やリンパ節の腫れが症状として見られることもあります。またダニから猫、人にうつる病気もあります。SFTS(重症熱性血小板減少症候群)ウイルスをもったダニに噛まれると発熱や筋肉痛、出血傾向等の症状が発症し、重症度によっては最悪死に至ります。

このような感染症が疑われる場合には自身で判断せずに早めに病院で受診されることをおすすめします。

猫も人も感染症に気をつけて健康な日々を過ごしましょう！